



「あしすと」の発行

全国学力・学習状況調査の活用役立つ資料提供

単元確認問題・きときとプリント等の学習プリント作成

GIGA teacherの公開授業指導案や資料の提供

各学校等の要望に応じたアラカルト研修の実施 など

学力向上に関する提供資料一覧



毎月、学力向上に関する情報やサイトの更新情報を、県内各学校等に配信しています。

全国学力・学習状況調査は、資質・能力の育成に向けて、「全学年を通じた学習指導の改善・充実に活用できるもの」を目指して作成されています

「全国学力・学習状況調査」の調査問題は、学習指導要領が求める育成を目指す資質・能力を踏まえた、私たちへのメッセージと言えます。国立教育政策研究所ホームページには、調査問題の「解説資料」が掲載されています。また、7月の調査結果の公表の際には、調査結果からみられた課題や誤答の分析、学習指導のポイントや授業アイデア例等を示した「報告書」が掲載されます。ぜひ、調査問題を活用して、育成すべき資質・能力を確認し、授業づくりに生かしましょう。

「調査問題」を通して、学習指導要領が求める「資質・能力」を確認し、「授業づくり」について考えてみましょう。

小学校算数①

加法や減法の問題場面の数量の関係を捉え式に表すこと（折り紙）

1 ゆうまさんたちは、折り紙で遊んでいます。

(1) ゆうまさんは、折り紙を72枚持っています。

ゆうまさんが持っている折り紙は、こはるさんが持っている折り紙より28枚少ないです。

こはるさんが持っている折り紙の枚数を求める式を、下のアからエまでの中から1つ選んで、その記号を書きましょう。

- ア $72 + 28$
- イ $72 - 28$
- ウ 72×28
- エ $72 \div 28$

【正答】 ア

■学習指導要領における領域・内容

〔第2学年〕A 数と計算

(2) 加法及び減法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(エ) 加法と減法との相互関係について理解すること。



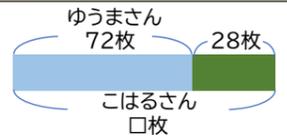
この問題ではどのような間違いやつまずきがみられるでしょうか？

⚠ 問題文の「少ない」という言葉から「ひき算」だと考えてしまう子がいませんか？

⚠ 友達が「たし算」だと言っているからと、十分に理解していないのに、何となく答えを求めている子がいませんか？



この単元の授業では、「テープ図」を使って考えることが多いですが、**学級全員が**つまずくことなく取り組むことができているでしょうか。



小学校学習指導要領解説<算数編>では、この学習に関連する数学的活動として、次のようなことが掲載されています。(P132より抜粋)

問題場面と図、図と式を関連付けて解決の仕方を伝え合う活動 ~加法と減法との相互関係

例えば「はじめにリングがいくつかあって、5こもったら12こになりました。はじめに幾つありましたか。」という問題場面では、「もらった」のだから、加法で答えが求められると考える児童や、減法で求められるという児童がいることが想定される。これらの児童の対話の中で、「この問題は、たし算で答えが求められるのか、ひき算なのかははっきりさせよう」などの問いが生まれるだろう。そして、**加法なのか、減法なのかをはっきりさせるために、「この問題場면을図にして、その計算でいい理由を図から考えよう。」と、見通しをもつ。**

<国立教育政策研究所 笠井健一調査官の講話から>

この学習でどんなところにつまずくか？

- ① たし算かひき算か分からない
- ② 図をどう描いてよいか分からない
- ③ 図の説明ができない



例えば、ゆうまさんのテープ図の長さを、学級全員で10cmに揃えて書き始めることで共通の図で考えられるようにしたり、図の説明の際には、問題文にある言葉を使って説明するよう子供に促したりしましょう。

また、学習課題を、「たし算とひき算のどちらの式が場面に合っているか、図に表して説明しよう」とすることで、問題を焦点化することなども考えられます。

調査問題の作成にあたり、「答えだけ出せるのではなく、説明できる子になってほしい」という思いをもって、だからこそ、日頃から、子供たちが「分からない子に分かる説明をしてあげること」を繰り返し、思考力を育成することを大切にしてほしいと思います。



「質問調査」も授業づくりに活用しませんか？

例えば「児童生徒質問調査」にみられる、「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができると思う」や「友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる」は、質問自体が学習指導要領が求めていることを示しており、授業に反映されているのか把握・分析することができるようになってきています。教科の調査問題とともに、ぜひ活用していただけたらと思います。

次号「あしすと87号」では、引き続き全国学力・学習状況調査を取り上げ、昨年度から取り組んでいる「とやま型学力向上プログラム(Ⅲ期)」について考えたいと思います。